目 次

## 東予市誌 目

次

## 自然環境編

2 髙縄山系の岩石類	質	2 扇 状 地	一地 形	資源	第二章 地形・地質・地殻の変動・地下	二人 口	一位置•面積	第一章 東予市の位置・面積・人口
2 大きな災害ニ 1 明治以降の自然災害ニ	二 自然災害	4 湿度・気圧・日照時間	2 降水量	1 気 温	一 気 (侯	第三章   気候・自然災害	四 地下資源	三 地殻の変動

	=	目
三	第一章 武家政権の成立	四 弥生時代の主要遺跡  穴
	中世	2 鉄器
7	-	1 青銅器
Ę	ま古学からみた古代 の 近 育 耳	三金属器
	学行学パラダニ行代の 道前 也	二 稲作の始まり101
至	古墳時代の遺跡	希(第V様式)
異		第一章上
兲	2 中期古墳	(第三・三・V弟犬) …
兲	1 前期古墳	1 前期弥生式土器(第1兼式).
兲	四 主要古墳並びに主要古墳群	一 弥生式土器
亳	三 古墳時代後期	地力 ····································
臺		2.5 本作で会別者の見ざ田子の文賞
Ξ		第三章 稲乍と金属器の尔主寺代の首前
=	Ji 月	六 縄文晩期
Ξ	<b>道前平</b> 纾	¥ 1 1 1
	第四章 豪族たちの支配した古墳時代の	五 畢文炎切
≣	3 後期遺跡	四 謎の縄文中期
気	川 道跡	三 縄文前期
5	: 有其	二級文字其
₹	<b>竹拐盘亦</b>	
	1	:
<u>+</u>	一 縄文草創期	方
<u>:</u>	方	第一章 ナウマン象のいたころの道前地
	第二章 狩猟・漁労・採集時代の道前地	原始・古代
	<b>t</b>	
		歴 史 編
		3 カブトガニ吧
<u>;</u>	6 保存樹木(林)	2 動物の種類と変化
華	5 公害草と花粉症	1 海の生物
華 :	•	一動物
毛	3 湿地植物	华
: 基 :	2 土手の植物	第四章 电多分
<u>.</u>	1 海浜植物	(6) 昭和五十六年の異常低温四)
<u>:</u>	一 植 物	(5) 台風一七号水害
茎	(3) ハッチョウトンボ	
<u>÷</u>	② 帰化動物	(3) 南海大地段による被害
英	(1) 野 鳥	(2) フェーン現象による稲作被害・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
至	4 陸の動物	⑴ 中山川角部土手の決壊
	=	多

绺

							第三章					第二章				
3	2	1	=	2	1	_		_	Ξ	=	_		四	Ξ	=	_
櫛部氏と桑村衆	黒川氏のぼっ興と躍進	鷺森城と桑原氏	周布郡・桑村郡の旗頭たちニニ	戦国末期の河野家 三元	周布郡・桑村郡の居館跡・城砦跡 三二	戦国時代の周布郡・桑村郡の状況 三	戦国時代	3至代臣の十二	多買今長のヒヒ	佐志久原(佐々久原)の戦い 三二	南北朝の内乱と世田山城 三宝	武家社会の展開lg	安楽寿院領吉岡荘の動向	観念寺と長福寺の創建 120	多賀谷氏の西遷 云	新居系図と郷土の武士団 六
第一章							ىد					<b>-</b>	<b>-</b>		四	_
	ì	近	4	3	2	1	七	4	3	2	1	六_	五.	^	-	=
秀吉の	,	C.	農閑期	貫高と軍役	地侍と旗頭	税の	戦国時	長曽我	元宅が	金子元	越智・	長曽我	黒川氏	の出陣	三好氐	新居郡
秀吉の四国平定と東予地方 ☰	†	世	農閑期に戦争をした		近旗頭・大名	収取	戦国時代の税の収取その他	長曽我部元親の四国統一	元宅が桑村衆を襲う	金子元宅が桑原氏と戦う	越智・周桑の将兵が南予に出動	長曽我部氏の伊予侵入と四国統一	黒川氏と壬生川氏の争い	の出陣	三好氏の伊予侵入と河野通吉の鷺森城	新居郡錯乱と金子氏の台頭
疋と東					・大名との関係		収取その	国統一	<del>5</del>	と戦う	(が南予	プ 侵 入、	氏の争		人と河	ナ氏のな
予地											に出動	と四国	い -		野通吉	台 頭 :
力 												統 —			の鷺森4	
壹			: 듏	· 競	· 륯	三世	: 調	· 蒙	: 量	:	: =	:	:	: 蒡	姒	: 莞

三   3 池田 景雄	2 福島正則	1 小早川隆景	一 目まぐるしい領主の交替と主な事績…	第二章 豊臣時代の郷土		二 可抒氏讨戈	臼 小早川勢に加勢した宇野一族	→ 金子勢に参加した者	6 周布郡・桑村郡の小豪族たちの動き	5 長曽我部勢の状況	② 戦いの状況		臼 髙尾城の攻略	₩ 金子城の攻略	4 毛利軍の上陸	3 高峠城内の評定	2 四国征伐軍の編成と戦闘の要図	1 長曽我部元親の決心	一 高尾城の攻略
地田景雄 :: 地田秀氏		츳	··· 云蓝	줖	į	丟	荛	荚	荚	奏	蓋	臺	臺	蓋	薑	薑	罿	蓋	菫
	池田秀氏	小川祐忠	来島康親	安国寺恵瓊	西軍に参加した者	加藤嘉明	藤堂高虎	東軍に参加した者	三 関ケ原の難いと伊刊の領主な		朝鮮出兵の従軍	小田原征伐の従軍	島津征伐の従軍	大名の知行と軍役	二 領主たちの従軍	麻田藩青木民部少輔一	藤堂高虎	小川祐忠	池田景雄

目

第三章

 $\Rightarrow$   $\Rightarrow$ 

ベ

家臣の給与 …………………………… >=0 藩の行政組織と軍事組織 …………… 三豆 上級武士と下級武士 ……………… 三二 

藩祖の意気込みと藩政の概要 ………… 云

伊予八藩の成立 ………………… 云む

(5 到 上	④ 庄屋に関する参考事項 55
(4 小 牧 成	
利米····································	の仕事
高 掛 物	庄屋の仕事
本 途 物 成(本年貢)	と村方三役の仕事
分 資組の種類 800	2 各藩の農村支配機構
6 頁 組	1 近世の村の成立
4) 住	二 農村の生活
(3) 食	6 藩札の発行 癸二
② 履き物 気	② 天領地支配所の変遷
(1) 衣	(1) 御償新田畑
5 衣・食・住	5 松山藩の上知問題と御償新田畑 亳ゼ
② 西条藩領周布村と石田村の比較 烹	(4) 天領の新田
⑴ 松 山 藩 霎	(3) 松山藩の千潟千拓新田 芸
臼 江戸時代後期の農民の階層	(2) 西条藩玉之江村の新田 吴田
→ 江戸時代初期の農民の階層	(1) 小松藩領の干潟干拓新田
	(対 干潟干拓の新田
简	(2) 新町の開発
改庄屋と大庄屋	(1) 新田・新出・出作
<b>臼 内陸部における新田開発                               </b>	→ 家臣の数
新田村と新田開発による分村・分割 …    三元	2 藩士とその活動組織など
(3) 市内の新田の面積 弖	(7) 改庄屋と大庄屋の任命 三八
② 干拓新田開発の条件 三三	(6) 高内又七の農政改革 1000
(1) 新田の類型	(5) 代官所の位置の変遷 三〇五
東子市内の新田   臺	④ 新町と丹原に在町と代官所の設置 … 言
田と新	③ 壬生川浦附近の総合開発の実施 1001
()新田	② 当地方の総合開発計画 三三
4 各藩領の新田開発 三	(1) 藩政を貫くもの
<b>闽 著名な代官の例 三三</b>	会 松 山 藩
代官所の組織	分 小 松 藩
(年) 代官所の仕事	(2) 松平西条藩
臼 代官所の建物 臺一	(1) 一柳西条藩 元
H 代 官	() 西条 藩
3 代官と代官所の仕事 >	1 潜在の意気辽みと灌琢の楔要   元

찃 찃

目

り 桑寸取り星国公方即度	う と
(1) 天領桑村郡の動き 異0	闽疫病禍
松山藩追討令と土佐蕃兵の進駐	② その後の大飢饉 異穴
長州征伐と郷土	(1) 享保の大飢饉
	四 飢 饉 累
⑴ 神奈川辺野備と藩財政の逼迫	(3) 与荷の種類 異
↔ 松山藩の動き 異0	② 人工灌漑と「与荷米」 異
释	⑴ 人工灌漑 罩
	早
→ 測量の状況 『七	③ 水害の対策 異
1 伊能忠敬らの海岸測量と今在家村宿泊 … 昭	
四 幕末非常時の郷土 智	
(1) 上市の製糖業 異	(1) 河川による水害 塁
4) 国安・石田の和紙製造 空気	(5) 安政の大地震 置
(3) 西条藩の和紙製造 空	(4) 宝永四年の大地震 豎
(2) 小松藩の和紙製造 空	③ 慶長十九年の地震と津波 置一
(1) 伊予の和紙 空一	文禄五年の大地震
⊖ 和紙の製造 翌	(1) 天正十四年の大地震 閏()
11 郷土の特産品の起こりとその先覚者 罕一	() 地 ( )
10 自然の災害と疫禍	(5) 三津屋の港と新法 四三
(4) 駄 賃	
(3) 往来手形	③ 松山蕃の総合施策と壬生川の変ぼう- 三二
(2) 宿泊施設	② 松平定行入部以前の壬生川浦の繁盛: 2011
⑴ 宝曆三年『伊勢参宮西国道中日記』… 異	(1) 壬生川浦村の特殊性 日元
臼 庶民の旅 22	⊖ 壬生川村の特殊性と三津屋村との紛争:■元
↔ 周桑平野の主要街道と遍路道 閏三	8 江戸時代の商業
交通と旅	臼 慶応三年桑村郡天領分の農民騒擾 四元
57 天保九年諸色値段 821	→ 北条村の典村騒擾 四六
Θ 松山藩内の在町と煮売店許可場所 閏0	7 百姓一揆と農民騒擾 四六
四 三津屋の商業 買売	村が負担する全税額と與家経済
	(4) 年貢米の輸送
生魚問屋と魚の行商:	(3) 年貢米の収納と御蔵・斗屋 間間
壬生川浦番所と分一銀	(2) 年貢米の条件
	(1) 年貢米の内容
幕末の主な商人	
船宿と問屋	台 年貢徴収を中心とした庄屋の行事 BI
•	(7) 国 役
(1) 壬生川の商業 買引	66分一銀

	11 組土の特産品の起こりとその先覚者	24
要0	─ 和紙の製造	型
<b>盟</b>	(1) 伊予の和紙	型
翼	② 小松藩の和紙製造	叫
田田	③ 西条藩の和紙製造	型
受	④ 国安・石田の和紙製造	型
西英	臼 上市の製糖業	哭
四五五	四 幕末非常時の郷土	中中国
<b>B</b> 安	1 伊能忠敬らの海岸測量と今在家村宿泊 …	中中
異	(一) 測量の状況	中中
壁心	⇒ 小松蕃の対応	咒
盟し	2 幕末・維新期における郷土各藩の動き …	<b>\(\tau_{0}\)</b>
罢	₩ 松山藩の動き	<b>严</b> ()
쮶	⑴ 神奈川辺髯備と藩財政の逼迫	50
質の	(2) 松山藩の異国船防御策	四
(1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	③ 長州征伐と郷土	咒
哭八	④ 松山藩追討令と土佐藩兵の進駐	鬥
野八	天領桑村郡の動き	究()
04B	⑴ 桑村郡の異国船防御策	究()

	=	目次
014	一斉学力テスト	2 町村会選挙制度の改正 奈元
	二 教員の勤務評定反対闘争と文部省全国	1 米 騒 動交
を	らし	終了までの町村と住民のくらし 宍
	一 第二次世界大戦後の町村制と町民のく	十 第一次世界大戦後より第二次世界大戦
흎	第四章 第二次世界大戦後の東予市域 … 5至	2 水平運動 会
5	2 電信・電話	1 部落改善
兖	1 郵 便	九 部落改善と水平運動 宍三
兖	二 通 信	3 地主組合、協調会の結成と農民組合 奈一
至	3 海上交通	2 ――――――――――――――――――――――――――――――――――――
兖	2 鉄 道	1 米穀検査反対の運動 会
至	1 陸上交通	八 小作争議と農民運動 会
交	一 交 通	七 大正期の地主小作関係 奈
夽	発達	六 地方改良運動 公元
	第三章 東予市域における交通・通信の	3 煙害問題終結へ 公宝
\$	•	2 煙害解決への動き
三交		1 煙害と農民の動き 台間
ŝ	3 自作農創設	五 四阪島煙害と農民 公司

次	10
(2) 農民騒擾 咒	6 戸長官選 要
□ 小松蕃の動き 異	二 徴兵制・地租改正・松方デフレと村民
⑴ 小松藩の勤王と神通丸惣助 気	の動き 曼0
② 戊辰の役に出兵 異	1 〜 徴兵制と村民の動き;
潘政時代の各村の概要 81	2 地租改正と村民の動き 蓋
松山藩領の村々の概要 吾1	⑴ 税制改革 臺
天領の村々の概要 吾1	② 地租改正事業
小松蕃領の村々の概要 吾]	3 松方デフレと村民のくらし <del>型</del>
西条藩領の村々の概要 吾]	二 地主制の確立 天0
(代・現代	第二章 市町村制公布から第二次世界大
明治維新期と東予市域 豊	戦終了までの東予市域 翌1
県、郡、町村の編成 壹一	一 町村制の施行
潘置県当時の県、郡、村	二 新郡制の実施と周桑郡の成立 尭
石鉄県の設置と大区・小区制 萱	三 日浦・日露戦争と村民 台
愛媛県の設置と大小区制 吾三	1 日漕戦争出征兵士の手紙 ☆○三
大小区制下の民会 蓋0	2 日露戦争と村政
三新法下の郡、町村	四 北海道開拓移民

この女員の力务平三之寸組みこと形容を国	- A D	
らし お気	終了までの町村と住民のくらし 谷	奴
一 第二次世界大戦後の町村制と町民のく	第一次世界大戦後より第二次世界大戦	•
第四章 第二次世界大戦後の東予市域 … 🔄	2 水平運動	2
2 電信・電話 七01	- 部落改善	1
1 郵 便	部落改善と水平運動 奈三	
二 通 信 突	◦ 地主組合、協調会の結成と農民組合 巛	3
3 海上交通 空	2 ――――――――――――――――――――――――――――――――――――	2
2 鉄 道	■ 米穀検査反対の運動 ☆ ☆	1
1 陸上交通 交	小作争議と農民運動 奈	• •
一 交 通 益	大正期の地主小作関係 奈	_
発達 交	地方改良運動	• •
第三章 東予市域における交通・通信の	3 煙害問題終結へ	3
5 戦時下の町村	4 煙害解決への働き 夳!	2
	Ⅰ 煙害と農民の働き ☆	1
3 自作組食部	四防島煙害と患身	_

一 戦前の港湾改修	第六章 都市計画の現状と展望 (会) 第十章 農 業 編 (会) 4 農家構成及び耕地所有の状況 (会) 4 農家
-----------	---

一五	目次	
2 漁業経営1000	(4) 共有山組合(実報寺)	
1 漁場の位置1000	外二ヶ村入会山組合	
三 東予市の漁業の現状と動向1000	(3) 庄内村外六ヶ町村入会山組合・庄内村	
二 明治以降の漁業	② 県行造林	
	(1) 官行造林公団造林 夬二	
2 漁業生産	1 旧庄内村内の山林	
1 漁場慣行の形成	章 材	一
一 近世の漁業 宍		_
	5 農業協同組合の合併と組合の現状 卆三	
二章 漁 業	4 農業生産の展開動向 炎 第二章	
(5) 三津屋共有山林	3 農家構成、農家人口、農地等の動向 4克	
共有山林	2 土地改良、農業水利事業の概観 会	
五所神社)今在家(三保神社)	1 戦後改革	
③ 北条生産森林組合	三(戦後改革と農業展開の諸相 益)	_
(2) 周布生産森林組合	7 戦時期の農村問題と農薬団体の統合 空	
⑴ 周布吉田造林組合 六日	6 昭和恐慌期の農村窮乏と農業団体の動向… 空	
3 市外小松町・丹原町内の山林 六日	5	
2 旧吉岡村内の山林 六日	4 慣行小作権並びに水利問題 六六	
(5) 部落有林	3 米麦作及び産米改良の展開 九三	

五

-
7
-

は じ め		Ξ	=	2	1	_	第四章	ī	五	2	1	四	4	3	目
めに	教	東予市商工会議所	商業の現況	壬生川の商業	明治時代の商業	明治以降の	南		水産試験場東予分場	その他の養殖	ノリ発殖	養殖	漁業生産	漁船	次
10党	育編	会議所	商業の現況1018	業1011	商業100元	明治以降の商業の変遷10元	<b>第</b>	友	東予分場100%	殖			1001	1001	
·IO兒 第一章		¢101·	101	10111	·100x	·10分	9	. I M	·100k	·100#	1001	1001	·1001	第五章	
		3	2	1	Ξ	2	1	=	(2)	(1)	2	1	_		
蕃政時代の教育		製造品出荷額10ii	従業者数 001	事業所(工場)数 ::	工業の現況	製紙業の現況10章	製紙業の変遷·lOll	製紙業	戦後の工業立地	フジボウ愛媛壬	工場立地	明治~昭和初期の概況	工業の変遷1011	工 業	
····10g		<u>IO</u>	<u> </u>	J0宣	ION	 달	<u> </u>			:: []	10:11	1011	1011	:: [ <u>9</u>	

1 無 学 校 : : : : : : : : : : : : : : : : : :	第二章 3.1 二 5.4 6.4
2 近藤篤山の招聘	
灌校と武士の教育―小松藩の教学― … UE	

目

め、寺請証文、檀家制度[三]		1 天台宗と真君宗
キリスト教の伝来、その禁制、 宗門 改	1	三 平安のころ
江戸幕府と宗教ニニニ	六	3 修 験 道]三元
戦乱の中で  三	五	2 南都六宗
神本仏迹説]]三	5	1 仏教伝来
法 華 宗	4	二 仏教伝わり花開く
臨済宗、曹洞宗	3	3 道祖神(サエノカミ)ling
、 浄土真宗、 時宗	2	2 氏 神 三
. 古義、新義	1	1 日本古来の宗教 神道
新しい動き言	四四	一 神々の出現 三言
本地垂迹説	3	
式 内 社	2	第一章 総 説
		宗教編
社会都育施設の充実三七	5	2 公民館
	4	戦後社会教育の発足
好人会及 5 好人語 5 付	á	
帮人dit及以帮人者团本	<b>3</b>	戦をひ上会女育
		:
愛国婦人会	4	1 国民学校の発足
会	3	四 戦争中の教育 1111
青年団	2	② 明神青年学校
	ı -	(1) 中城背年学校・中城家政女学校!!!ベ
戦前の社会数育	_	5 青年学校1114
社会教育	第三章	4 青年訓練所  豆
愛媛県教育会及び周桑教友会	9	(4) 丹原町立実用女学校
愛媛県教育研究協議会	8	③ 庄内村立庄内技芸女学校二二
教員組合と勤評闘争	7	② 壬生川町立実科女学校
教育委員会	6	(1) 小松町立実用女学校
幼児教育  協	.5	3 実科女学校
高等学校の設立と再編成	4	④ 実業補習学校の整備
周桑農業学校の設立	3	(3) 庄内村立農業補習学校
小学校区沿革·中学校沿革二三	2	
新学制の発足	1	(1)
戦後の教育  三	五	2 実業補習学校104
学童疎開	, <b>3</b>	1 青年夜学会110k
戦時の小学校	2	二   勤労青年の教育

目

次

**元** 

目

	第五章 民 謡
	第四章 民話と伝説
	四迷信
	秋から冬の行事
	盆の行事
	春から夏の行事
7	1 正月行事
	三年中行事
2 市内の地名 200	二 習 慣
<b>担合の</b>	3 家]
一 地 名 豎	~
第六章 地名と方言[25]	1 衣 生 治]臺
四 わらべ歌	一 衣食住の変遷]霊
歌	第三章 風俗・習慣
二 祝いごとや祭りの歌	三 村の生活ョョ
一 労働の中の歌 四元	二 同 族 (いちまき)  聖
一 村のしくみの変化	第一章 風土と民俗
第二章 村落社会のしくみと生活」臺	はじめに
	民 俗 編
	八 戦雲の中から
第三章 寺院	社教)][[元
第二章 神 社	5 教派神道(黒住教・金光教・天理教・大二 丸 イ ニー・オーイ
十一 その他の宗教	キリスト教禁制の撤廃
十 巡礼参拝ブーム三型	
九 社寺のつながりbl	1 神仏判然令、廃仏毀釈
5 神道系及び仏教系の新しい宗教	七 明治の夜明けと宗教

3

寺院法度、神主袮宜法度 ……………………………

2 1

ᇙ

3

講 ......11回0 畏地開放と社寺 .....]三0 

2

目

次

5 4

檗

寺 子 屋 ......

E

## 諸芸文化財編

														第
2												1	_	章
和	(11)	(10)	(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	俳	文	諸
歌	荻野梅光と内藤世南   50k	明治・大正の俳句	『知名美久作』に出ている郷土俳人 …1801	『予陽俳諧友千鳥』の郷土俳人 三三	一茶の伊予来遊	二条家俳諧と当地方の奉納俳額 咒	俳 系 図	淡々門下の郷土俳人	談林派俳諧と郷土俳人 554	松山藩俳諧の草分け   民	俳句の起源	)	学'''''''''''''''''''''''''''''''	芸
		_	_											

					<b>→</b>										
5	4	3	2	1	_	<b>(-)</b>	ر. ۱	3	<b>/-</b> \	<b>/-</b> \			<b>(</b> 2)	<b>(~)</b>	<i>(</i> -)
4=	1:1	月	李	<b>Æ</b>	絵	(2)	(1)	111	(6)	(5)	17/4-	(4)	(3)	(2)	(1)
矢野稜威雄	村		青	矢	絵画	审	Ш	Ш	ЖÞ		歌人	<u> </u>	=	冷	*
稜	上鳳湖	岡	野	野	•	東予市の川柳吟社	川柳の流れ		戦前戦後の短歌会	『ひなのてぶり』	7	『詠百首和歌』の中の東予市及び周辺の	『周桑歌人集』の郷土歌人たち	冷泉為村と郷土の歌人	大山為起と郷土の歌
威	爲	栖	桑	圭	彫刻	市	Ø		戦	な		出	<del>※</del>	為	為
雄	湖	霞	里	洲	刻	<u>න</u>	流	柳	後	9		和	人	村	起
:	÷	:	÷	:	:	圳	n	:	り	٠,		歌	集	と 知	と知
	•					吟	•		歌	'n		5	5	14m	平
•	•					社			会	ڪ		中	郷	あ	あ
						:			:	Ø		Ó	土	歌	歌
	i	i	÷					•		の郷土歌人		重	歌	人	人
i	:		i	•				:	÷	盐	:	ずま	ᄼ	:	:
	i	•	÷							人	•	及	たち		
i	÷	÷	÷	i	i		:	i	i	<i>'</i> .	÷	ΰ	•	-	•
:	÷	i	:		•			÷		:	÷	周		÷	
i	i	÷	÷			:	•	i	÷	÷	i	辺	i	i	i
<u>:</u>	<u>:</u>	<u>:</u>	Ŀ	<u>:</u>	<u>:</u>	<u>:</u>	<u>:</u>	<u>:</u>	Ŀ	<u>:</u>	<u>:</u>	0)	Ŀ	<u>:</u>	<u>:</u>
臺	薑	薑	폴	五元	芸	높	三宝	三量	五	三五	五		至三	甍	蒉
			_	,,,	,,,	7	~==	-=-	~	.22.			_	,,,	,

1	_	第二章	(3)	(2)	(1)	Ξ	8	7	6
建造物]臺	有形文化財]臺	文 化 財	田中守と田口信教 臺	壬生川工業髙校サッカー部 臺記	富士紡壬生川ボート部	スポーツ 茎気	現在活躍中の方々	畑 晃春 至三	髙橋 周桑
	第三章								

<ul><li>三記念物</li><li>3 彫刻・工芸品</li><li>5 石造美術</li><li>1 無形民俗文化財</li></ul>
石 古 彫 絵 造 書・
古文と表
影 絵 刻

## 郷土史年表

目

次

第二章

戦没者名簿 .....

#OXI .....

第一章

東予市先人録 ......

2 1

 物

編